

令和6年10月31日

## 日本横断型資源循環プロジェクト

～砺波のチューリップを、砺波の土壌で。～

|           |  |
|-----------|--|
| 主催者       | イベント主催者：東京都 臨海副都心「花と緑」のイベント実行委員会<br>イベント事務局：東京港埠頭株式会社<br>事業企画立案：砺波市農地林務課   |
| 開催日時・期間   | 堆肥すき込み：令和6年11月頃<br>チューリップ植付け：令和6年11月下旬<br>イベント開催期間：令和7年3月14日(金)～令和7年4月20日(日)   |
| 場所        | 東京都立シンボルプロムナード公園<br>(東京都港区台場、江東区青梅・有明)   |
| 行事又は事業の概要 | <ol style="list-style-type: none"><li>1 東京都の台場、有明、青海に位置する「東京都立シンボルプロムナード公園」では、毎年砺波産チューリップを購入・植栽され、「臨海副都心チューリップフェスティバル」を3月中旬から4月中旬にかけて開催されています。(2025年で13回目)</li><li>2 先般、同公園を管理する「東京港埠頭株式会社」が砺波市役所を訪問され、2025年は花壇規模を拡大することとしており、チューリップはこれまでの16万球から50万球に大幅に増やして県花卉球根農業協同組合から購入するとの報告を受けました。(参考)</li><li>3 その際に、<u>同公園の砺波産チューリップ花壇の土壌改良に、散居村の剪定枝をリサイクルした堆肥を活用できないかという提案</u>をしました。</li><li>4 このことから、本市では、同提案を東京から地方の課題を支える「日本横断型資源循環プロジェクト」として企画立案し、同社へ担当者を派遣して改めて提案したところ、公園を所有する東京都の承諾も得られ、本事業が実現することになりました。</li></ol>  |

|             |   |
|-------------|---|
| <p>特記事項</p> | <p>・剪定枝をリサイクルした堆肥を活用することにより、以下の効果が期待できます。</p> <p>1 剪定枝の処分という<u>地方が抱える課題を東京から支える</u>ことができます。</p> <p>2 <u>チューリップ球根と併せて土壌にも砺波産のものを活用</u>することで、事業に一貫したストーリー性をもたせることができます。また、<u>SDGsやGXを絡めたPR効果</u>が期待できます。</p> <p>3 <u>化成肥料や農薬に頼らない人と環境に優しい土作り</u>が可能となります。</p> |
| <p>問合せ先</p> | <p>所属 農地林務課</p> <p>電話番号 0763-33-1431 (直通)</p> <p>電話番号 0763-33-1111 (内線412)</p>  |

|        |            |
|--------|------------|
| ポイント箇所 | <u>下</u> 線 |
| 新規事項   | 波 <u>線</u> |



砺波 × 東京港埠頭株式会社

# ”日本横断型資源循環プロジェクト”

商工農林部農地林務課

1 事業概要

2 砺波の散居景観

3 事業内容

4 メリット

5 キャッチコピー

臨海副都心チューリップフェスティバル花壇の土壌改良に、  
砺波市の散居村の剪定枝をリサイクルした堆肥を活用する  
”日本横断型資源循環プロジェクト”です。

カイニヨ（屋敷林）に囲まれた民家が点在する景観は、社会科の教科書でもおなじみな、農村の原風景とも呼べるものです。四季折々に表情を変えるこの風景を楽しむことができます。



屋敷林の枝打ちを行った際に排出される  
剪定枝の処分が課題となっています。

※ ( ) 内の数値は令和5年度の実績

## 屋敷林の維持・管理



## 枝打ち



- 市民がごみ処理施設へ持ち込み (約626t)
- 市の収集事業
  - ・ 剪定枝リサイクル大作戦 (約362t)
  - ・ 剪定枝戸別回収 (約16t)



上記だけで  
毎年約1,000tが集まる

剪定枝が排出されます

リサイクル処理施設で  
堆肥等にリサイクル

剪定枝リサイクル大作戦では  
収集した枝の約70%が堆肥化

堆肥



- ・ 砺波チューリップ公園の土壤改良材として利用 (年間26t)
- ・ 県内外のホームセンター等で販売

さらに…



臨海副都心チューリップフェスティバルの花壇  
の土壤改良材として利用

砺波産チューリップの栽培を  
砺波の土壌で

具体的には…

施肥面積

946m<sup>2</sup>

【内訳】①セントラル広場（調和の花壇）の砺波市コーナー 641m<sup>2</sup>  
②ウエスト地区Ⅰ（300品種の見本園） 305m<sup>2</sup>  
※会場全体の花壇面積は12,000m<sup>2</sup>

施肥量

345袋（7 t）

※1袋あたり40ℓ（20kg）入  
※花壇1m<sup>2</sup>あたりの施肥量は15ℓ（7.5kg）

施肥箇所の  
チューリップ  
植栽球数

38,900球

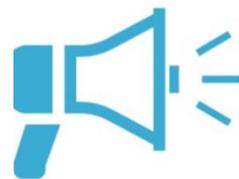
【内訳】①セントラル広場（調和の花壇）の砺波市コーナー 7,500球  
②ウエスト地区Ⅰ（300品種の見本園） 31,400球

砺波の剪定枝をリサイクルした堆肥を用いることで、以下の効果が見込めます。



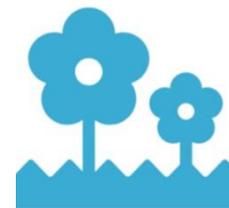
### 東京から 地方の課題を支える

散居景観を維持保全するために排出される剪定枝を再活用することで、地方が抱える課題を支えることができます。



### PR効果

チューリップ球根および土壌に全て砺波市から生産されたものを活用することによって、事業に一貫したストーリー性を持たせることができます。とともに、SDGsやGXを絡めたPR効果を期待できます。



### 人と環境に優しい土作り

化成肥料や農薬に頼らない「環境に優しい土づくり」が可能となり、子どもから大人までが集う公園を安全な場所として使用できます。また、剪定枝を堆肥にリサイクルすることでCO2の排出削減につながります。

キャッチコピー①

富山県砺波市と東京の  
日本横断型資源循環  
プロジェクト

キャッチコピー②

砺波のチューリップを、  
砺波の土壌で。